

第 177 回 日本循環器学会東北地方会

プログラム

会 期：令和5年12月2日（土）午前8時30分より

会 場：コラッセふくしま

福島県福島市三河南町1-20 TEL：024-525-3910

第1会場：4F 多目的ホールAB

第2会場：3F 企画展示室

第3会場：4F 401会議室

第4会場：5F 小研修室

審査会場：5F 特別会議室

会長 竹石 恭知

事務局：福島県立医科大学医学部 循環器内科学講座

福島県福島市光が丘1番地

TEL:024 (547) 1190 FAX:024 (548) 1821

【参加費】 当日受付で現金にてお支払いください。

(医師/その他 3,000 円、メディカルスタッフ 1,000 円、学生/初期研修医 無料)

【単位付与】 学会単位：5単位、教育セッション1・2両方の聴講で3単位

これらの付与は現地で行います。

【演題発表】 一般演題：発表時間5分、質疑応答2分

YIA 及び学生・初期研修医 AWARD：発表時間7分 質疑応答5分

*発表時間は手元の計時機器に表示され、残り1分前に黄色点灯、終了時に赤色点灯します。

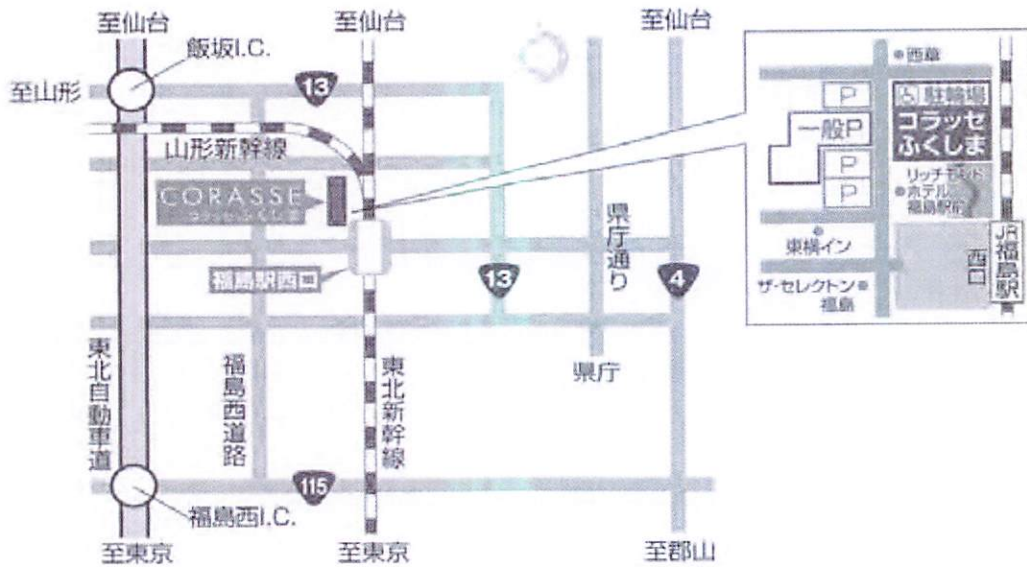
- コンピュータープレゼンテーションによる発表のみとします。
- Windows 版 Power Point で作成してください。
- 動画の使用は YIA と学生・初期研修医 AWARD でのみ可能です。
- 円滑な進行のため、発表者ツールのご利用はできません。原稿はご自身でご用意ください。
- Macintosh はご自身の PC をご持参ください。HDMI への変換を必ずご持参ください。
- 発表30分前までに、作成したデータを USB メモリに入れて PC 受付にお持ちください。
- データのファイル名には演題番号（半角）に続けて発表者の氏名（漢字）をつけてください。
(例：07 福島太郎)
- 不測の事態に備えて、バックアップデータをお持ちください。

【託児施設】 本会場内に託児施設を設置します。ご希望の方は東北支部 HP をご確認ください。

追記：学会案内状・プログラムは、原則として日本循環器学会会費納入者に限り発送いたします。
会場にクロークの設置はございません。

会場案内図

概略図

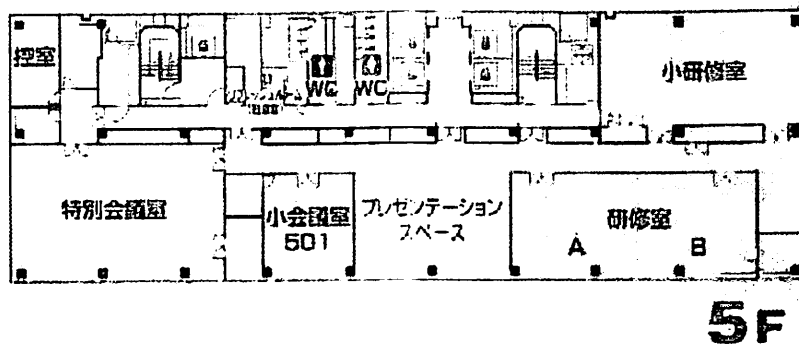
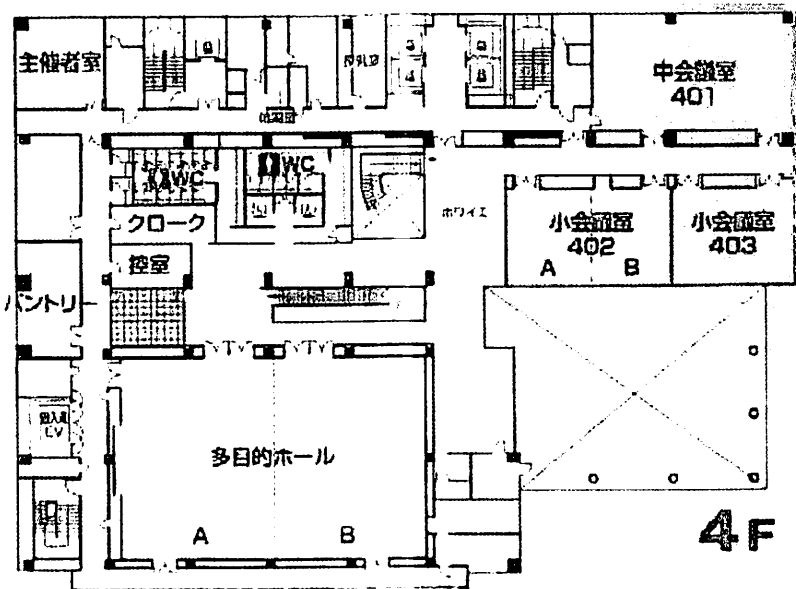
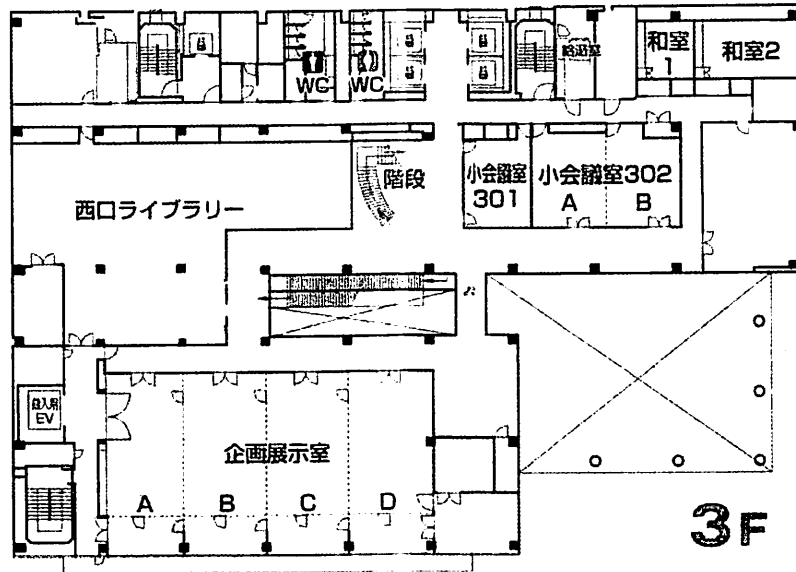


- 福島駅西口から徒歩3分
- 東北自動車道福島西I.C.、飯坂I.C.から車で約15分
- 駐車場(有料)の台数に限りありますので、ご来館の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

周辺詳細図



フロア案内図



プログラム (敬称略)

	第1会場 4F 多目的ホールAB	第2会場 3F 企画展示室	第3会場 4F 401会議室	第4会場 5F 小研修室	審査会場 5F 特別会議室
8:00	8:15~ 受付開始				
9:00	8:55~ 開会あいさつ		8:30~9:10 モーニングセミナー 演者:阿古 潤哉 (北里大学 循環器内科学) 座長:安田 聡 (東北大学大学院医学系研究科)		
	9:00~10:00 YIA 症例発表部門 座長:竹石 恭知 (福島県立医科大学)	9:00~10:00 学生・初期研修医 AWARD 発表部門 座長:石田 隆史 (福島県立医科大学)	9:15~9:57 心不全・その他 座長:小林 淳(福島県立医科大学) 熊谷 亜希子(岩手医科大学)	9:00~9:42 不整脈① 座長:石田明彦(仙台市立病院) 田代晴生 (秋田大学大学院医学系研究科)	
10:00	10:00~11:00 YIA 研究発表部門 座長:竹石 恭知 (福島県立医科大学)	10:05~10:40 虚血性心疾患① 座長:横山公章 (弘前大学大学院医学研究科) 大和田卓史 (白河厚生総合病院)	9:57~10:32 大動脈弁・治療 座長:房崎哲也(岩手医科大学) 西宮健介 (東北大学大学院医学研究科)	9:42~10:24 不整脈② 座長:木村正臣 (弘前大学大学院医学研究科) 佐竹洋之(大岡市民病院)	9:30~10:00 成人先天性心疾患部会
		10:40~11:15 虚血性心疾患②・その他 座長:尾上紀子(仙台医療センター) 鈴木哲人 (秋田大学大学院医学系研究科)	10:37~11:05 血栓症 座長:山塚 実(東北医科大学) 大木理次(大原総合病院)	10:29~11:04 心臓・心筋疾患 座長:及川雅啓(福島県立医科大学) 芳沢美知子(岩手医科大学)	10:00~10:30 学生・初期研修医 AWARD 審査会
11:00	11:20~12:00 学術セミナー 演者:中嶋正貴 (仙台厚生病院) 座長:中里 和彦 (福島県立医科大学)	11:20~11:55 心筋症 座長:伏見悦子(平賀総合病院) 後岡広太郎 (東北大学大学院医学系研究科)	11:10~12:00 ダイバーシティセッション 演者:齋藤 悠司 (石巻赤十字病院) 菅原 由紀子 (福島県立医科大学) 渡部 賢 (山形県立中央病院) 座長:西崎 史恵 (弘前大学大学院医学研究科)	11:04~11:32 肺循環・肺動脈血栓症 座長:杉本浩一(福島県立医科大学) 高橋 但(盛岡医療センター)	10:40~10:55 心臓生体法普及委員会
				11:32~12:00 補助循環 座長:大迫寺飛雄(山形県立中央病院) 清水竹史(福島県立医科大学)	11:00~11:30 YIA 審査会
12:00					11:30~12:00 支部役員会
	12:10~13:10 学術セミナー共催 ランチョンセミナー A 演者:金城 貴士 (福島県立医科大学) 演者:大和田 真玄 (岩手医科大学) 座長:渡辺 昌文 (山形大学)	12:10~13:10 学術セミナー共催 ランチョンセミナー B 演者:豊田 茂 (獨協医科大学) 座長:竹石 恭知 (福島県立医科大学)	12:10~13:10 学術セミナー共催 ランチョンセミナー C 演者:渡邊 博之 (秋田大学大学院医学系研究科) 座長:富田 稜史 (弘前大学大学院医学研究科)	12:10~13:10 学術セミナー共催 ランチョンセミナー D 演者:武藤 雄紀 (福島県立医科大学) 演者:田村 晴俊 (山形大学) 座長:森野 禎浩 (岩手医科大学)	
13:00					
	13:20~13:50 評議員会 YIA 表彰式 学生・初期研修医 AWARD 表彰式				
14:00	14:00~14:45 教育セッション1 演者:中島 祥文 (岩手医科大学) 座長:熊谷 浩司 (東北医科大学)				
15:00	14:45~15:30 教育セッション2 演者:有本 貴範 (山形大学) 座長:竹石 恭知 (福島県立医科大学)				

YIA 症例発表部門

(第1会場:4F 多目的ホール AB) 9:00～10:00

座長 竹石 恭知 (福島県立医科大学)

01 心停止から集学的治療により独歩退院に至った劇症型好酸球性心筋炎の一例

¹東北医科薬科大学 内科学第一 (循環器内科)、

²東北医科薬科大学 救急・災害医療学

○黒瀬 裕樹¹、亀山 剛義¹、佐藤 司¹、長谷川 薫¹、菊田 寿¹、住吉 剛忠¹、
関口 祐子¹、山家 実¹、小丸 達也¹、遠藤 智之²、熊谷 浩司¹

02 経時的に増大した冠動脈瘤に対しハイブリッド手術を施行した IgG4 関連冠動脈疾患の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座

○對馬 迪子、加藤 朋、妹尾麻衣子、市川 博章、西崎 史恵、澁谷 修司、花田 賢二、
横山 公章、富田 泰史

03 劇症型心筋炎に類似した転移性心臓腫瘍の一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座

○鈴木 真由、鈴木 智人、加藤 僚祐、加澤 隆康、若木 富貴、渡邊 博之

04 線維筋性異形成による冠動脈狭窄病変に対し薬剤塗布バルーンにて経皮的冠動脈形成術を行った若年女性の1例

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○関根虎之介、清水 竹史、津田 尚彦、飯田あかね、西浦 司人、片平 正隆、佐藤 悠、
横川 哲朗、小林 淳、八巻 尚洋、中里 和彦、石田 隆史、竹石 恭知

05 心臓ヘモクロマトーシスによる重症心不全：MRI T1 値ガイド下での鉄キレート剤治療を行った一例

東北大学病院 循環器内科

○千葉 直貴、矢尾板信裕、後岡広太郎、佐藤 遥、佐藤 大樹、山本 沙織、鈴木 秀明、
高濱 博幸、安田 聡

YIA 研究発表部門

(第1会場：4F 多目的ホール AB) 10:00～11:00

座長 竹石 恭知 (福島県立医科大学)

06 慢性心不全患者における便秘と臨床的特徴の検討

公立置賜総合病院 循環器内科

○高畑 葵、新関 武史、羅 世成、後藤 準、土屋 隼人、岩山 忠輝、佐々木 敏樹

07 経カテーテル大動脈弁留置術 (TAVI) 患者における非重症弁周囲逆流の意義

¹秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座、

²能代厚生医療センター

○高橋 潤¹、佐藤 輝紀¹、佐藤 和奏¹、鈴木 真由¹、鶴沼 真由¹、須藤 佑太¹、
若木 富貴²、加藤 宗¹、高木 祐介¹、渡邊 博之¹

08 通常型心房粗動に対するクライオアブレーションにおける、冷凍焼灼効果への右冠動脈血流の影響について

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○大河内 諭、野寺 穰、山田 慎哉、金城 貴士、竹石 恭知

09 本邦における境界型肺高血圧症 (borderline PH) の予後と心血管死に関する検討

東北大学病院 循環器内科

○山田 祐資、矢尾板信裕、佐藤 大樹、小丸 航平、千葉 直貴、山田 魁人、佐藤 遥、
山本 沙織、建部 俊介、安田 聡

10 術前心エコー指標によるスコアリングは経カテーテル大動脈弁置換術後患者の予後層別化に有用である

山形大学医学部附属病院 第一内科

○枝村 峻佑、田村 晴俊、飯塚 敦士、小林 智貴、永井 貴之、須貝 孝幸、橋本 直明、
大瀧陽一郎、和根崎真大、沓澤 大輔、加藤 重彦、西山 悟史、有本 貴範、高橋 大、
渡邊 哲、渡辺 昌文

学生・初期研修医 AWARD 発表部門

(第2会場: 3F 企画展示室) 9:00 ~ 10:00

座長 石田 隆史 (福島県立医科大学)

11 心不全をきたした偽性アルドステロン症の一例

東北医科薬科大学病院 循環器内科

○門倉 眞由、山家 実、佐藤 司、黒瀬 裕樹、長谷川 薫、菊田 寿、住吉 剛忠、
関口 祐子、亀山 剛義、小丸 達也、熊谷 浩司

12 父の急変を契機に心停止に陥った QT 延長症候群 (LQTS) の 1 例

¹ つがる総合病院 臨床研修医、

² つがる総合病院 循環器呼吸器腎臓内科、

³ 弘前大学医学部附属病院 循環器腎臓内科学講座

○薬袋 真帆¹、北山 和敬²、成田 憲紀²、米倉 学²、外山 佑一³、加藤 千里²、
阿部 直樹²

13 僧帽弁手術待機中に偶発的に発見された部分肺静脈灌流異常症による心外シャントの一例

¹ 岩手県立中央病院 循環器内科、

² 岩手県立中央病院 心臓血管外科

○杉谷 勇太¹、三浦 正暢¹、江森 毅郎¹、太田 悠自¹、田中聡一郎¹、赤沼 利奈²、
長谷川喬彦²、澤田 駿¹、船木 崇裕¹、安齋 潤¹、高橋 誠²、寺尾 尚哉²、
齊藤 大樹¹、佐藤謙二郎¹、金澤 正範¹、近藤 正輝¹、河津 聡²、遠藤 秀晃¹、
小田 克彦²、中村 明浩¹

14 右室流出路狭窄合併が肺うっ血や左心不全症状の進行を抑制したと推察される右バルサルバ洞動脈瘤破裂の 1 例

¹ 大原総合病院 初期研修医、² 大原総合病院 循環器内科、

³ 大原総合病院 総合診療科、⁴ 福島県立医科大学 循環器内科、

⁵ 福島県立医科大学 心臓血管外科

○橋本 知樹¹、池田 彩乃²、黒沢 雄太²、赤間 浄²、大木 理次²、國井 浩行²、
齋藤 修一²、稲田 裕香³、及川 雅啓⁴、竹石 恭知⁴、横山 斉⁵

15 右心カテーテル検査で早期診断し得た心肥大を伴わないトランスサイレチン型心アミロイドーシスの一例

¹ 岩手県立胆沢病院 循環器内科、

² 岩手県立中央病院 循環器内科

○前沢 樹¹、照井 洋輔¹、菌部 太一¹、八木 卓也¹、野崎 哲司¹、三浦 正暢²

虚血性心疾患①（第2会場：3F 企画展示室） 10:05～10:40

**座長 横山 公章（弘前大学大学院医学研究科）
大和田卓史（白河厚生総合病院）**

16 第一世代 DES 留置後、超遅発性ステント血栓症の治療中に生じた no reflow に塩酸フラスジルが有効であった 1 例

独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター

○井上 敬貴、尾上 紀子、篠崎 毅、山口 展寛、玉泷 智昭、高橋 佳美、笠原信太郎、
松田 航星、横山 大樹、渋谷 和之、高 俊弘

17 2 枝同時 ACS を発症し、経過中に脳梗塞を併発した本態性血小板血症の一例

青森県立中央病院 循環器内科

○須藤 芽維、櫛引 基、三木 祐澄、鹿内 駿、中田 真道、川村 陽介、鈴木 晃子、
館山 俊太、今田 篤

18 石灰化結節が原因となった急性冠症候群を、短期間のうちに繰り返した透析患者の一例

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

○佐々木 航、石田 大、佐々木拓渡、木村 優、朴澤麻衣子、橋本 直土、後藤 巖、
高橋 祐司、森野 禎浩

19 微小血管狭心症の診断に侵襲的冠動脈機能検査と負荷心筋 perfusion MRI が有用であった一例

東北大学病院 循環器内科

○白戸 崇、高橋 潤、神戸 茂雄、大山 宗馬、進藤 智彦、西宮 健介、羽尾 清貴、
安田 聡

20 急性心筋梗塞患者における入院時中性脂肪値と臨床的アウトカムの検討

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座

○加藤 和史、横山 公章、加藤 朋、對馬 迪子、妹尾麻衣子、市川 博章、西崎 史恵、
澁谷 修司、花田 賢二、富田 泰史

虚血性心疾患②・その他

(第2会場：3F 企画展示室) 10:40～11:15

座長 尾上 紀子 (仙台医療センター)

鈴木 智人 (秋田大学大学院医学系研究科)

21 心筋梗塞後心タンポナーデに対し心嚢ドレナージ術と心臓リハビリテーションを行い安全に退院できた一例

いわき市医療センター 循環器内科

○渋井 愛子、野木 正道、隈部 将太、則政 颯、渡辺 翼、土屋 聡、石井 和典、
瀬川 将人、工藤 俊、塙 健一郎、山下 文男、杉 正文、山本 義人

22 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症により心筋虚血が確認された一例

一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院

○土山 晃弘、天海 一明、穴戸奈美子、松本 善幸、永沼和香子、川村 敬一、大杉 拓、
小野 正博

23 頻回に心エコーをフォローし診断できた感染性心内膜炎 (IE) の一例

みやぎ県南中核病院

○細井 崇志、佐藤 諒弥、玉那覇有亮、小松 茉由、堀川 達雄、井汲 陽祐、田中 修平、
塩入 裕樹、富岡 智子

24 LDL コレステロール吸着療法が有効だった足関節以下の膝下動脈病変による包括的高度慢性下肢虚血の症例

仙台厚生病院 心臓血管センター

○堀江 和紀、田中綾紀子、多田 憲生

25 経大腿静脈アプローチ後の合併症で血管内治療を要した1症例

仙台厚生病院 心臓血管センター 循環器内科

○熊谷 洋之、堀江 和紀、多田 憲生

心筋症（第2会場：3F 企画展示室） 11:20～11:55

座長 伏見 悦子（平賀総合病院）

後岡広太郎（東北大学大学院医学系研究科）

26 左脚ブロックを契機にATTR心アミロイドーシスを診断した一例

大原総合病院 循環器内科

○赤間 浄、國井 浩行、池田 彩乃、黒沢 雄太、大木 理次、齋藤 修一

27 心サルコイドーシスに対するステロイド治療により、急速に糖尿病が増悪した一例

¹ 東北大学病院 卒後臨床研修センター、

² 東北大学病院 循環器内科

○木下 英尊¹、鈴木 秀明²、高濱 博幸²、後岡広太郎²、林 秀華²、新井真理奈²、
井上 巧²、薄田 海²、武内 広樹²、矢尾板信裕²、山本 沙織²、佐藤 大樹²、
佐藤 遥²、建部 俊介²、安田 聡²

28 非対称性心室中隔肥大を呈し、恒久的ペースメーカー植え込み術を要した心臓サルコイドーシスの1例

竹田総合病院 循環器内科

○宗像 慧太、上田 捷太、鈴木 喜敬、和田 健斗、鈴木 聡

29 トランスサイレチンとλ型軽鎖が同組織に検出された心アミロイドーシスの症例

¹ 福島県立医科大学 循環器内科、

² 福島県立医科大学 血液内科

○佐藤 洋太¹、三浦 俊輔¹、片平 正隆¹、大原妃美佳¹、武藤 雄紀¹、及川 雅啓¹、
木村 哲²、小林 淳¹、八巻 尚洋¹、中里 和彦¹、竹石 恭知¹

30 脳梗塞発症を契機に診断した心室瘤・心内血栓を伴う心室中部閉塞性心筋症の一例

福島赤十字病院 循環器内科

○草野 亮太、芳賀 文香、阪本 貴之、渡部 研一、大和田尊之

心不全・その他（第3会場：4F 401会議室） 9：15～9：57

座長 小林 淳（福島県立医科大学）
熊谷亜希子（岩手医科大学）

31 虚血性心筋症による重症心不全に対し集学的治療で救命できた一症例

寿泉堂総合病院 循環器内科

○大橋 尚人、水上 浩行、谷川 俊了

32 急性心不全に対しサクビト ril・バルサルタンが著効した拡張型心筋症の一例

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○石井三千花、佐藤 崇匡、磯松 大介、西野 笙汰、野寺 稷、山田 慎哉、金城 貴士、
竹石 恭知

33 当院に於ける心不全への包括治療

社会医療法人 福島厚生会 福島第一病院

○星野 寧人

34 便秘と心不全患者における心不全再入院の関連

仙台市医療センター仙台オープン病院 循環器内科

○浪打 成人、谷田 篤史、砂村慎一郎、小野寺健太、尾形 剛、野田 一樹、瀧井 暢

35 イブプラジンによるQT延長を認めた一例

秋田県立循環器・脳脊髄センター 循環器内科

○高橋 徹、藤橋 敬英、天水 宏和、山崎 大輔

36 心筋炎による致死性不整脈に対しWCDを装着した一例

太田西ノ内病院

○鈴木 法彦、室田 定洋、神山 美之、大和田 光司、野崎 祐司、安藤 卓也、金澤 晃子、
石田 悟朗、小松 宣夫

大動脈弁・治療（第3会場：4F 401 会議室） 9:57～10:32

座長 房崎 哲也（岩手医科大学）

西宮 健介（東北大学大学院医学系研究科）

37 経カテーテル的大動脈弁置換術後に左室流出路狭窄が増悪し、著明な血行動態悪化を来した6症例

仙台厚生病院 心臓血管センター

○岡田 寛正、小林 雄太、遠田 佑介、中嶋 正貴、西願 誠、里見 夏子、藤 云、多田 憲生

38 TAVI後に溶血性貧血を来した一例

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○佐藤 智基、佐藤 彰彦、関根虎之介、安齋 文弥、小林 淳、八巻 尚洋、中里 和彦、石田 隆史、竹石 恭知

39 重症大動脈弁狭窄症と心膜液貯留による心原性ショックの1例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座

○畠山 葉月、佐藤 輝紀、鈴木 真由、鈴木 暢容、小笠原暢宏、青川 麻子、須藤 佑太、若木 富貴、渡邊 博之

40 右室流出路狭窄をきたした未破裂巨大バルサルバ洞動脈瘤の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座

○岩間 拓史、澁谷 修司、加藤 朋、對馬 迪子、妹尾麻衣子、市川 博章、西崎 史恵、花田 賢二、横山 公章、富田 泰史

41 緩徐な経過をとったValsalva洞動脈瘤破裂の1例

¹ 星総合病院 初期研修医、

² 星総合病院 循環器内科

○斎藤 一帆¹、中村 裕一²、岡部 亮斗²、笠原 慎也²、佐藤勇太郎²、大原妃美佳²、國分 知樹²、松井 佑子²、坂本 圭司²、越田 亮司²、三橋 武史²、渡辺 直彦²、木島 幹博²

血栓症（第3会場：4F 401 会議室） 10：37～11：05

**座長 山家 実（東北医科薬科大学）
大木 理次（大原総合病院）**

42 筋力低下を契機に多発血栓症・血管病変の診断に至った一例

¹東北医科薬科大学病院 循環器内科、

²東北医科薬科大学病院 心臓血管外科

○熊谷 輝¹、亀山 剛義¹、黒瀬 裕樹¹、長谷川 薫¹、菊田 寿¹、関口 祐子¹、
清水 拓也²、熊谷 浩司¹

43 右下肺静脈血栓が、左房内に伸展し、左房壁の前胸部側・頭頂部側に付着したと考えられる1症例

たけうち内科クリニック

○竹内 秀和

44 肺塞栓症・深部静脈血栓症と腎梗塞を同時に発症したがん関連血栓症の1例

青森県立中央病院 循環器内科

○三木 祐澄、鹿内 駿、川村 陽介、鈴木 晃子、籠山 俊太、櫛引 基

45 ペースメーカー留置後に発症した上大静脈症候群に対して DOAC が有効であった1例

栗原市立栗原中央病院 循環器内科

○安川 遥、深澤恭之朗、高田 剛史、矢作 浩一、平本 哲也

不整脈① (第4会場: 5F 小研修室) 9:00 ~ 9:42

座長 石田 明彦 (仙台市立病院)

田代 晴生 (秋田大学大学院医学系研究科)

46 従来の両心室ペーシングにおける左室リードの留置位置として Diagonal vein が有効であった3症例

¹ 仙台循環器病センター 臨床工学科、

² 仙台循環器病センター 循環器内科

○佐々木皇司¹、宮澤 聡²、畠山 岳²、田中 直之²、前田 寿¹

47 シベンゾリン内服中に wide QRS tachycardia を認めた一例

¹ 山形県立中央病院 初期研修医、

² 山形県立中央病院 循環器内科

○玉谷 紘悠¹、渡部 賢²、青野 智典²、會田 敏²、長谷川寛真²、佐々木真太郎²、
大道寺飛雄馬²、高橋 克明²、玉田 芳明²、福井 昭男²、松井 幹之²

48 横隔神経走行部が最早期の Focal AT の一例

一般財団法人 太田総合病院附属 太田西ノ内病院

○大木 和紗、神山 美之、大和田光司、室田 定洋、野崎 祐司、安藤 卓也、金澤 晃子、
石田 悟朗、小松 宣夫

49 His 束近傍に Kent 束をもつ房室回帰性頻拍に対してクライオアブレーションが奏功した一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座

○柳澤 和哉、岩川 英弘、安部 誓也、楡井 周作、田代 晴生、寺田 健、渡邊 博之

50 BOX 隔離後も誘発しうる再発性心房細動に対して CARTO FINDER と DF mapping に基づく追加焼灼が有効であった1例

東北医科薬科大学 内科学第一 (循環器内科)

○住吉 剛忠、佐藤 司、黒瀬 裕樹、長谷川 薫、菊田 寿、関口 祐子、亀山 剛義、
山家 実、小丸 達也、熊谷 浩司

51 AAI ペースメーカーとリードレスペースメーカーによる併作動治療を行った完全房室ブロックの一例

中通総合病院

○五十嵐知規、阪本 亮平、播間 崇記、柴田 陽

不整脈② (第4会場:5F 小研修室) 9:42~10:24

座長 木村 正臣 (弘前大学大学院医学研究科)
佐竹 洋之 (大崎市民病院)

52 CARTO FINDER 2 回施行し、右心房の心房細動誘発を停止できた再アブレーションの1例

栗原中央病院 循環器内科

○矢作 浩一、深澤恭之朗、高田 剛史、安川 遥、平本 哲也

53 心房細動を契機に心不全を発症した顕性 WPW 症候群に対して準緊急カテーテルアブレーションを施行した一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座

○五十嵐 舜、外山 佑一、木村 正臣、西崎 公貴、金城 貴彦、石田 祐司、伊藤 太平、
佐々木真吾、富田 泰史

54 QDOT アブレーションカテーテルを用いて焼灼に成功した Modulator band 起源の心室期外収縮の1例

大崎市民病院

○山戸田勇貴、佐竹 洋之、藤田 吉成、山中 慎一、田中 俊二、山内 毅、相澤健太郎、
円谷 隆治、竹内 雅治、岩淵 薫

55 高カリウム血症を契機に心室頻拍が頻発した末期腎不全患者の一例

¹ 福島県立医科大学 循環器内科学講座、

² 福島県立医科大学 心臓調律制御医学講座

○西野 笙汰¹、山田 慎哉^{1,2}、磯松 大介¹、野寺 稯¹、金城 貴士¹、竹石 恭知¹

56 反射性失神や先天性 QT 延長症候群が疑われたがカテコラミン誘発多形性心室頻拍の確定診断に至った一例

東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野

○伊藤 知宏、佐藤 宏行、山本 惟彦、千葉 貴彦、長谷部雄飛、中野 誠、野田 崇、
安田 聡

57 破壊性甲状腺炎に伴う pre-excited AF に対し、カテーテルアブレーションが有効であった1例

仙台市立病院 循環器内科

○渡部ともみ、鈴木 啓資、縄田 遼、鈴木 舞、中潟 寛、青木 恒介、佐藤 英二、
中嶋 壮太、山科 順裕、宮下 武彦、三引 義明、石田 明彦、八木 哲夫

心膜・心筋疾患（第4会場：5F 小研修室） 10：29～11：04

座長 及川 雅啓（福島県立医科大学）
芳沢美知子（岩手医科大学）

58 サイトメガロウイルス感染に伴う急性心膜炎の一例

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

○漆久保明子、登坂 憲吾、佐藤 慎、山屋 昌平、那須 崇人、二宮 亮、木村 琢己、
森野 禎浩

59 血性心嚢液を伴った滲出性収縮性心膜炎の一例

弘前大学医学部附属病院 循環器内科・腎臓内科

○西崎 公貴、外山 佑一、金城 貴彦、石田 祐司、伊藤 太平、木村 正臣、佐々木真吾、
富田 泰史

60 左室流出路狭窄を合併したたこつぼ症候群の一例

山形大学医学部附属病院 第一内科

○豊嶋 麻集、田村 晴俊、須貝 孝幸、橋本 直明、和根崎真大、大瀧陽一郎、沓澤 大輔、
加藤 重彦、西山 悟史、高橋 大、有本 貴範、渡邊 哲、渡辺 昌文

61 完全房室ブロックで入院した直後にたこつぼ型心筋症を併発し心不全が重症化した一例

¹ 福島赤十字病院 臨床研修センター、

² 福島赤十字病院 循環器内科

○五十嵐菜央¹、草野 亮太²、芳賀 文香²、阪本 貴之²、渡部 研一²、大和田尊之²

62 アドリアマイシン投与後8年で発症した若年女性のHFrEF症例

¹ 由利組合総合病院、

² 秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座

○熊谷 彩季¹、山中 卓之²、加藤 僚祐²、青川 麻子²、田代 晴生²、渡邊 博之²

肺循環・肺動脈血栓症（第4会場：5F 小研修室） 11：04～11：32

座長 杉本 浩一（福島県立医科大学）

高橋 信（盛岡医療センター）

63 右心浮遊血栓を認める重症肺塞栓症を ECMO 使用せず救命した1例

仙台市立病院 循環器内科

○鈴木 啓資、縄田 遼、渡部ともみ、鈴木 舞、中潟 寛、青木 恒介、佐藤 英二、
中嶋 壮太、山科 順裕、宮下 武彦、三引 義明、石田 明彦、八木 哲夫

64 間質性肺炎合併シェーグレン症候群による肺高血圧症に対し肺血管拡張薬が奏効した一例

秋田大学医学部附属病院 循環器内科

○石原 歩葉、加藤 宗、高橋 潤、鷓沼 真由、山中 卓之、渡邊 博之

65 卵円孔開存を介し右腎梗塞を合併した肺血栓塞栓症の一例

太田西ノ内病院 循環器内科

○渡邊 匠、大和田光司、室田 定洋、野崎 祐司、安藤 卓也、金澤 晃子、石田 悟朗、
神山 美之、小松 宣夫

66 外科的血栓摘除により救命しえた、出血性疾患を合併した重症肺血栓塞栓症の一例

¹岩手県立中央病院 循環器内科、

²岩手県立中央病院 心臓血管外科

○畠山 梓¹、三浦 正暢¹、江森 毅郎¹、太田 悠自¹、田中聡一郎¹、船木 崇裕¹、
澤田 駿¹、安齋 潤¹、加賀谷裕太¹、齊藤 大樹¹、佐藤謙二郎¹、金澤 正範¹、
近藤 正輝¹、河津 聡²、遠藤 秀晃¹、小田 克彦²、中村 明浩¹

補助循環（第4会場：5F 小研修室） 11：32～12：00

座長 大道寺飛雄馬（山形県立中央病院）
清水 竹史（福島県立医科大学）

67 非挿管管理下で ImpellaCP 使用し一期的に完全血行再建した心筋梗塞の一例

日本海総合病院 循環器内科

○井出 健介、長島 義宜、齋藤 博生、伊東 万里、菊地 彰洋、桐林 伸幸、近江 晃樹、
菅原 重生

68 急性冠症候群と心タンポナーデによる心原性ショックに IMPELLA が有効であった一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科

○工藤 廣大、田代 晴生、加藤 僚祐、青川 麻子、高木 祐介、鈴木 智人、渡邊 博之

69 IMPELLA 補助下に心室再同期療法を施行し救命できた重症心不全の一例

岩手県立中央病院 循環器内科

○加賀谷裕太、近藤 正輝、田中聡一郎、太田 悠自、江森 毅郎、船木 崇裕、澤田 駿、
安齋 潤、齊藤 大樹、佐藤謙二郎、金澤 正範、三浦 正暢、遠藤 秀晃、中村 明浩

70 敗血症性 + 心原性ショックが疑われたが、甲状腺機能検査をきっかけに続発性副腎不全と診断された1例

国立病院機構 仙台医療センター 循環器内科

○松田 航星、渋谷 和之、尾上 紀子、横山 大樹、高 俊弘、高橋 佳美、笠原信太郎、
玉淵 智昭、山口 展寛、篠崎 毅

モーニングセミナー

(第3会場：4F 401 会議室) 8:30～9:10

座長：

東北大学大学院医学系研究科

安田 聡 先生

「糖尿病と心不全～治療薬のエビデンスと使い方～」

演者：

北里大学 循環器内科学

阿古 潤哉 先生

共催：日本イーライリリー株式会社

学術セミナー

(第1会場：4F 多目的ホール AB) 11:20～12:00

座長：

福島県立医科大学

中里 和彦 先生

「TAVI Hot Topics ～慢性透析患者に対する
TAVI や TAVI 後コロナリーアクセスを考える～」

演者：

仙台厚生病院

中嶋 正貴 先生

共催：エドワーズライフサイエンス株式会社

学術セミナー共催 ランチョンセミナー A

12:10～13:10 (第1会場:4F 多目的ホール AB)

座長:山形大学 渡辺 昌文 先生

「AF 治療のワークフロー」

福島県立医科大学 金城 貴士 先生

「穿刺部止血どうしてますか？

当院の Perclose Prostyle 導入後」

岩手医科大学 大和田真玄 先生

共催:アボットメディカルジャパン株式会社

学術セミナー共催 ランチョンセミナー B

12:10～13:10 (第2会場:3F 企画展示室)

座長:福島県立医科大学 竹石 恭知 先生

「利尿剤を活用した心不全管理」

獨協医科大学 豊田 茂 先生

共催:ツムラ株式会社

学術セミナー共催 **ランチオンセミナー C**

12:10～13:10 (第3会場:4F 401 会議室)

座長:弘前大学大学院医学研究科 **富田 泰史** 先生

「心不全診療における ARNI の意義」

秋田大学大学院医学系研究科 **渡邊 博之** 先生

共催:ノバルティスファーマ株式会社

学術セミナー共催 **ランチオンセミナー D**

12:10～13:10 (第4会場:5F 小研修室)

座長:岩手医科大学 **森野 禎浩** 先生

「進化する TAVI 治療 ～10年で見えてきた今後の課題～」

福島県立医科大学 **武藤 雄紀** 先生

「AS 診断に求められる心エコー検査

～知っておきたい Tips とポイント～」

山形大学 **田村 晴俊** 先生

共催:日本メドトロニック株式会社

教育セッション

● 教育セッション 1

14:00～14:45 (第1会場: 4F 多目的ホール AB)

座長: 東北医科薬科大学

熊谷 浩司 先生

「構造的心疾患 カテーテルインターベンション
up-to-date」

岩手医科大学 中島 祥文 先生

● 教育セッション 2

14:45～15:30 (第1会場: 4F 多目的ホール AB)

座長: 福島県立医科大学

竹石 恭知 先生

「実例から学ぶ不整脈治療の進歩」

山形大学 有本 貴範 先生

ダイバーシティセッション

(第3会場：4F 401会議室) 11:10～12:00

「君たちはどう働くか 働き方改革後の私たちのロードマップ」

座長：

弘前大学大学院医学研究科

西崎 史恵 先生

演者：

石巻赤十字病院

齋藤 悠司 先生

福島県立医科大学

菅原由紀子 先生

山形県立中央病院

渡部 賢 先生

審査会・会議

成人先天性心疾患部会	9:30 ~ 10:00	(5F 特別会議室)
学生・初期研修医 AWARD 審査会	10:00 ~ 10:30	(5F 特別会議室)
心肺蘇生法普及委員会	10:40 ~ 10:55	(5F 特別会議室)
YIA 審査会	11:00 ~ 11:30	(5F 特別会議室)
支部役員会	11:30 ~ 12:00	(5F 特別会議室)
支部社員総会、評議員会、YIA 表彰式、		
学生・初期研修医 AWARD 表彰式	13:20 ~ 13:50	(5F 特別会議室)

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総 則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会 員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員 / 支部特別会員 / 支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社 員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。

4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会 / 社員総会において会計報告及び JCS-ITC 業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第 10 条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法 / 任期 / 定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理 / 事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要 (事後確認可) とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第 16 条 各支部は地方会を年 1 回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後 2 ヶ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第 17 条 各支部は JCS-ITC 講習会を JCS-ITC 担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC 講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC 担当幹事による確認を必要 (事後確認可) とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附 則

- 1) 本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目 的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定 義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に 違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのげられることはできない。
 - 1) 規程について正しい知識がなかったこと
 - 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
 - 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部運営内規

平成 28 年 4 月 1 日施行
平成 30 年 6 月 2 日改定
令和 2 年 8 月 23 日改定
令和 5 年 6 月 3 日改定

(総 則)

第 1 条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会支部規程を東北支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第 2 条 本支部における支部事務局を支部長が主宰する教室内に設置する。

(支部長・副支部長)

第 3 条 2 年毎に行われる理事選出選挙の後、第 6 条 2 項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は理事就任開始日からとする。

2. 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部長が本支部とは別の支部に異動した場合、支部長として退任となる。

第 4 条 本支部に副支部長 1 名を置く。

2. 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長に事故あるとき、または支部長が別支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。

(支部役員)

第 5 条 支部役員は、支部規程第 7 条 1 項に沿い、支部所属理事の他、支部長推薦枠として本支部においては、会員である東北地区 7 大学の循環器を担当する内科の教授が就任することとする。その他にも支部役員として必要な人物がいる場合は、支部長が推薦する。

2. 任期中において各大学教授の交代があった場合は役員も変更となるが、就任期間は前任者を引継ぐこととする。
3. 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第 6 条 支部規程第 8 条 1 項に定める支部監事の定数は、本支部においては 2 名とする。

2. 支部規程第 8 条 2 項に定める支部監事の選出について、本支部においては、支部運営から独立性をもった者を、支部長が候補者を会員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
3. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第 7 条 支部規程第 9 条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事 1 名、JCS-ITC 担当幹事 1 名、その他幹事を若干名とし、支部役員、支部評議員との兼務も可能とする。

2. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。

4. JCS-ITC 業務担当幹事は、会員かつファカルティーの中から選出することとする。ファカルティーがない場合は会員かつコースディレクターの中から選出する。
5. 支部幹事は、それぞれの業務において投資が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第8条 支部規程第10条に定める支部評議員は、支部役員1名の推薦により選出し、支部役員会及び支部社員総会において承認する。

2. 候補者は、支部役員会予定日より15日以前に所定の用紙を用いた履歴書、業績書及び支部役員1名が署名・捺印した推薦書を支部長へ提出する。
3. 支部評議委員会に正当な理由なく3回連続して欠席した者、退会した者、東北地区から移動した者は、支部評議員の資格を喪失する。
4. 支部評議員の任期は4年とし再任は妨げない。
5. 支部評議員の辞職は支部役員会及び支部社員総会において承認する。
6. 支部評議員の期中での辞職については、速やかに補充を行うこととし、支部役員会にて承認した上で、後日支部社員総会において追認する。なお任期は前任者を引継ぐこととする。

(地方会会長)

第9条 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」に定められた内容を遵守しなければならない。

2. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
3. 地方会会長は、地方会開催日程の決定を行う。
4. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
5. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
6. 地方会運営にあたる企画会社の選定は、会長一任とするが、企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
7. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設しなければならない。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のものが利用出来ない体制を構築しなければならない。
8. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部名誉会員)

第10条 支部規程第4条2項に定める支部名誉会員は、東北地区単独の支部社員総会において選任する

2. 支部名誉会員の被推薦資格は、支部社員総会開催日において年齢65歳以上(当日に65歳を迎える者を含む)の東北支部所属の会員であり、支部評議員を3期以上務めたものとする。
3. 支部名誉会員は、支部評議委員会に出席することができる。また、支部社員総会にも出席することができるが議決権は有しない。
4. 支部名誉会員は、支部役員、支部幹事の兼務を不可とする。
5. 支部名誉会員は、永年資格とする。
6. 支部名誉会員の内、東北地方会で会長を務めた者、支部長を務めた者は、支部特別名誉会員と呼ぶ。処遇は支部名誉会員に準用する。

(支部社員総会、支部評議員会)

第11条 支部規程第13条に定める支部社員総会、支部規程第14条の支部評議員会は、同時開催することとする。

(支部事務局業務)

第12条 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

(地方会)

第13条 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は原則として毎年2回地方会を開催する。
2. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会東北地方会とする。
地方会運営に関するその他の事項は地方会運営要領に定めることとする。

(JCS-ITC 講習会)

第14条 支部規程第17条1項に定めるJCS-ITC講習会について、本支部はJCS-ITC業務担当幹事との協議により支部事務局において事務業務(受講者への連絡、受講料受付・謝金や立替金の精算等)を行う。なお、これらの事務業務について、円滑に業務を遂行することを目的として、支部役員会の承認のもと、外部業者へ業務委託を行っても構わない。委託範囲・経済条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
2. JCS-ITC講習会の事務業務についてはJCS-ITC講習会事務要領に定めることとする。

附 則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 地方会運営要領

平成 28 年 4 月 1 日施行
令和 3 年 6 月 5 日改定

この地方会運営要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部（以下「本支部」という）において地方会を円滑に運営するために必要な事項を規定する。

(広 報)

1. 地方会会長は、地方会開催日程、会場、地方会会長事務局の担当者が決まり次第、本支部へ報告する。本支部は「地方会開催連絡票」を本会へ提出するとともに、本支部ホームページに情報を掲載することとする。
2. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。

(会 計)

3. 地方会会長、または、支部事務局担当幹事は、開催前年度の支部役員会・支部社員総会に出席して、本部へ提出予定の地方会予算及び事業計画について事前に承認を得る。また、支部評議員会にて報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる
4. 地方会参加費は、正会員 3,000 円、コメディカル 1,000 円、初期研修医無料、学部学生無料とする。参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
5. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。なお寄付金受入先について、本会が禁煙宣言を行っている学会であることを鑑み、本会学術集会同様、日本たばこ産業・鳥居薬品からの寄付受入は禁ずる。
6. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部よりその経費を補助する。ただし、上限を 100 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
7. 地方会において男女共同参画セミナーを実施する場合は、本支部より講師招請経費を補助する。ただし上限を 20 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
8. 地方会開催にあたり開設する金融機関の口座名義は、「一般社団法人日本循環器学会 第〇〇回東北地方会 会長 〇〇〇〇」とする。
9. 地方会当日の現金（参加費）の取扱いについて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10. 地方会当日に徴収した参加費について、当日中に口座入金するか金庫に保管することとする。地方会終了後、翌営業日には口座入金することとする。
11. 教育講演の招請者への待遇について、謝金上限は演者 100,000 円（源泉税抜）、座長 50,000 円（源泉税抜）、交通費は実費支給とし、地方会当日、直接本人へ現金もしくは振込対応する。これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
12. 地方会で支払われた講演謝金及び会長校スタッフ臨時雇用費の源泉所得税は、地方会会長事務局において納付対応する。なお東北支部事務局から参加したスタッフ臨時雇用費は、東北支部事務局において納付対応する。
13. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
14. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会繰越金専用口座に振り込むこととし、地方会開催に関係無い備品等の購入に充ててはならない。その後、口座は解約する。

15. 地方会の経費精算は、原則地方会終了後2か月以内に完了させ、入出金に係るすべての証憑を本支部に提出しなければならない。外部の団体から助成金・補助金を受けた場合は、交付決定通知書の控えも提出すること。
16. 地方会会長は、開催次年度の支部役員会・支部社員総会、支部評議員会に出席して、地方会決算及び事業内容の報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる。

(会 議)

17. 支部役員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部事務局が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
18. 支部社員総会、支部評議員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
19. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。

(演題募集)

20. 地方会会長は、演題募集スケジュールを決定し、「地方会演題募集ホームページ利用申請書」を本会及び本支部へ提出する。演題募集の開始日・締切日は前後に祝日のない火曜日から木曜日で設定すること。申請書の提出期限はオンライン演題募集システム利用開始の2カ月前とする。
21. 本支部は、オンライン演題募集システムの管理者用ID及びパスワードを地方会会長事務局へ通知する。なお、パスワードについては、本支部が毎年度更新することとし、変更後のパスワードを本会に通知する。
22. 募集締切日延長等の連絡は、混乱を避けるために必ず本会経由で行うこととする。

(専門医単位登録)

23. 地方会会長は、詳細が決まり次第「教育セッション開催届」ならびに「DVDセッション開催届」(DVDセッションを開催する場合に限る)を本会及び本支部へ提出しなければならない。
24. 地方会会長事務局は、地方会時に専門医単位登録(地方会参加5単位、教育セッション参加3単位、DVDセッション参加2単位)を行うこととするが、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
25. 教育セッション及びDVDセッションの専門医単位登録は、不正やミスを防止するため、時間を限定して行わなければならない。(例:セッション開始1時間(又は30分)前から終了30分前)
26. DVDセッションについて、同じ内容の講演会を学術集会及びインターネットで聴講したことのある会員は、単位加算ができない。地方会会長は事前にプログラム等でその旨を告知し、当日も会場に掲示すること。

(プログラム・抄録)

27. プログラムは、本会会告(偶数月25日発行)への抱き合わせで本支部会員へ発送することができる。希望する場合は、「地方会プログラム冊子抱合発送申請書」を本会及び本支部へ提出すること。プログラム以外の発送物(チラシ等)があれば、その内容を申請書に明記すること。申請書の提出期限は、会告発行1か月前とする。
28. 抄録については、冊子発行を行わず本会ホームページに掲載する。本会ホームページへの掲載にあたり、抄録著者による校正は行わない。訂正等がある場合には、地方会終了後速やかに本会へ連絡することとする。なお、地方会会長事務局は、その旨をプログラムに記載し会員に告知すること。
29. プログラム完成後、本支部へ2部、本会へ5部を送付すること。
30. 地方会会長は、抄録データを本会に提出しなければならない。当日発表されなかった演題は抄録データとして扱わない。

(演題発表)

31. 地方会演者は、発表前のスライドにおいて定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
32. 日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award について
 - 1) 当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA 「症例発表部門」「研究発表部門」)を設ける。
 - 2) 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
 - ① 応募資格
日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。
東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。
 - ② 対象演題
日本循環器学会東北地方会でされた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に 1 施設 2 題(ただし 1 科 1 演題)までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。
 - ③ 選考方法
地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞 1 名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。
 - ④ 会長奨励賞
YIA 希望演題の内、一般病院の演題から 1 題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選出された場合は YIA を優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。
 - ⑤ 応募方法
一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。
 - ⑥ 賞
部門毎に最優秀賞 1 名(賞金 10 万円)および優秀賞若干名(賞金 5 万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。会長奨励賞は 1 名(賞金 5 万円と表彰状)。
 - ⑦ 締切り
一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。
 - 3) YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。
33. 日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD について
 - 1) 当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD」を設ける。
 - 2) 東北地方会 学生・初期研修医 AWARD の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。

ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

① 応募資格

各地方会開催日において学生・初期研修医の方（日循会員の有無は不問）。

東北地方会において過去に学生・初期研修医 AWARD を受賞した者は、再応募はできない。

② 対象演題

筆頭演者である応募者が担当医として治療を行った症例報告もしくは重要な役割を果たした研究で、演題募集締切日までに他の学会で未発表かつ印刷公表されていない演題内容を対象とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、1施設2題（ただし1科1演題）までの応募とする。

③ 選考方法

地方会演題募集時に学生・初期研修医 AWARD 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とするセッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される審査委員会において厳重な審査を行う。なお、希望演題数が5題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

④ 応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。学生・初期研修医 AWARD 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「学生・初期研修医 AWARD に応募する」にチェックを入れ応募する。

⑤ 賞

最優秀賞1名（賞金10万円）および優秀賞若干名（賞金5万円）と表彰状。同点の場合は要検討とする。

⑥ 締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

- 3) 研修医 AWARD 選考委員会は会長校の准教授を選考委員長として、各県大学の循環器内科准教授／講師／助教より6名と、大会長が選出する6名の選考委員（循環器専門医研修施設より選出）の計12名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の准教授が交代で務めることとする。

（その他）

34. 会員への印刷物送付等の必要が生じた場合、本会へ「会員名簿・あて名作成依頼書」を提出して会員名簿及び宛名ラベルを請求することができる。会員情報のデータでの受け取りは原則不可とするが、例外的に申請する場合は、誓約書に会長の署名及び捺印が必要となる。
35. 地方会開催校については、公平を期すため各県で順番に開催する。なお、その順番等の変更については、支部役員会にて決定する。

附 則

- 1) この要領は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。この要領改正は、支部長の判断に基づき、支部事務局にて変更して良い。なお、変更時は、支部役員会での追認が必要となる。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 JCS-ITC 講習会事務要領

この事務要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部事務局において JCS-ITC 事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）を行うために必要な事項を規定する。

日本循環器学会は AHA(アメリカ心臓協会)と契約し、心肺蘇生法の教育を行う JCS-ITC(国際トレーニングセンター)を開設している。循環器専門医は心停止や心停止前後での蘇生や心拍再開後の集中治療を必要としていることから、AHA ACLS(二次救命救急措置)の資格取得を受験の条件としている。

また、医療従事者や一般市民向けのコースも開催しており、地域の救命率向上を目指していることから支部にてコース運営を行っており、それに付随する事務業務も支部事務局にて行っている。

※支部運営内規 第 6 条 3 にて定められる JCS-ITC 業務担当幹事はファカルティから選出される。

ファカルティは各コースの運営統括責任者であり、新たなインストラクターを教育する立場である。

1. 年 4 回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
2. コース開催日程は、支部ホームページに掲載することとする。
3. コース募集期間中、コースディレクター（以下、CD と略す）と連携を取り、受講者からの問い合わせ対応を行うこと。
4. 下記内容についての受講者への連絡を行うこと。
採択通知、追受講者の代理登録（CD より指示があった場合）、会場変更、コース中止
5. 講習会管理システムから受講者を確認し、受講者からの受講料入金確認を行うこと。規定日までに入金を確認できない場合には、入金の督促を行うこと。
6. 受講者より受講料領収書の発行依頼があった場合の発行手続きを行うこと。
7. 支部担当者が交代する場合には業務内容を明確の上、後任者へ引継ぎを行い、業務に支障が生じないようにすること。また支部担当者が急病等で業務を行えない場合は、事務局担当幹事より JCS-ITC 業務幹事に速やかに連絡をし、JCS-ITC 業務幹事と支部長において今後の対応を検討すること。
8. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。
9. 専用口座は、通帳管理者・印鑑管理者・キャッシュカード使用者（作成している場合のみ）を明確にし、一覧にして支部長へ提出しなければならない。（一覧に変更が生じた場合は随時、見直しを行い更新の上、提出する。）
10. 専用口座の通帳、印鑑は、使用者が施設出来る場所に必ず保管しなければならない。また、キャッシュカード、パスワードについては使用者が変更となる度に更新しなければならない。
11. コース開催時にコースディレクター等が昼食代等の立替精算をした場合、必ず領収書（レシート可）を入手し、何を購入し、何に利用したのか、誰が立替えたのか、分かるように領収書に記載（メモ書き可）の上、支部事務局へ提出すること。なおコース運営が参加者の受講料から成り立っていることを鑑み、不必要な経費支出は行ってはならない。
12. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクと各自立替えたコース開催地までの交通費について、支部事務局へ報告しなければならない。支部事務局はコースディレクターからの報告に基づき、インストラクター・タスク一覧を作成する。
13. 各コースディレクターがコースに必要な資金を前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 業務担当幹事のメール承認を要する。
なお、JCS-ITC 業務担当幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
14. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。

15. 支部事務局は、インストラクター・タスク一覧、提出された旅費申請書、領収書等に基づき、謝金(交通費・宿泊費含む)・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。(謝金金額については本会、救急医療委員会において定められたとおりとする。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。)
16. 支部事務局は、収入・経費を取纏め(漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認)の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。
17. JCS-ITC 講習会運営専用口座で余剰金が 1000 万円を超えた場合、支部の JCS-ITC 講習会専用口座に資金を移行する。

附 則

- ・この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- ・この要領改正は、支部役員会での決定を必要とする。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 会則

平成 28 年 4 月 1 日施行

平成 30 年 6 月 2 日改定

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA) を設ける。
2. 本会則は平成 21 年 2 月 14 日に開催される第 147 回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。
3. 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
4. YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award (東北地方会 YIA)

演題応募要領

趣 旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA) を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。
東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に 1 施設 2 題 (ただし 1 科 1 演題) までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞 1 名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

会長奨励賞

YIA 希望演題の内、一般病院の演題から 1 題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選出された場合は YIA を優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

賞

部門毎に最優秀賞 1 名 (賞金 10 万円) および優秀賞若干名 (賞金 5 万円) と表彰状。同点の場合は要検討とする。
会長奨励賞は 1 名 (賞金 5 万円と表彰状)。

締 切

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD 会則

2019年12月1日施行

2021年6月5日改定

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な研修医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会学生・初期研修医 AWARD」を設ける。
2. 本会則は2019年6月1日に開催される第168回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。
3. 東北地方会学生・初期研修医 AWARD の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
4. 研修医 AWARD 選考委員会は会長校の准教授を選考委員長として、各県大学の循環器内科准教授／講師／助教より6名と、大会長が選出する6名の選考委員（循環器専門医研修施設より選出）の計12名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の准教授が交代で務めることとする。

日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD

演題応募要領

趣 旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD」を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

各地方会開催日において学生・初期研修医の方（日循会員の有無は不問）。
東北地方会において過去に学生・初期研修医 AWARD を受賞した者は、再応募はできない。

対象演題

筆頭演者である応募者が担当医として治療を行った症例報告もしくは重要な役割を果たした研究で、演題募集締切日までに他の学会で未発表かつ印刷公表されていない演題内容を対象とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、1施設2題（ただし1科1演題）までの応募とする。

選考方法

地方会演題募集時に学生・初期研修医 AWARD 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とするセッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される審査委員会において厳重な審査を行う。なお、希望演題数が5題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。学生・初期研修医 AWARD 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「学生・初期研修医 AWARD に応募する」にチェックを入れ応募する。

賞

最優秀賞1名(賞金10万円)および優秀賞若干名(賞金5万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。

締 切

一般演題締切日と同日とする。
一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

第 177 回日本循環器学会東北地方会 YIA 審査委員

(敬称略)

青 森

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座

富田 泰史

つがる総合病院 循環器・呼吸器・腎臓内科

阿部 直樹

岩 手

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

森野 禎浩

岩手県立二戸病院 循環器内科

西山 理

秋 田

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座

渡邊 博之

いいの内科クリニック

飯野 健二

山 形

山形大学医学部 内科学第一講座

渡辺 昌文

山形県立中央病院 循環器内科

松井 幹之

宮 城

東北医科薬科大学 内科学第一 (循環器内科)

熊谷 浩司

仙台オープン病院 循環器内科

浪打 成人

福 島

福島県立医科大学医学部 循環器内科学講座

竹石 恭知

大原総合病院 循環器内科

齋藤 修一

第177回日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD 審査委員

(敬称略)

青 森

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座

佐々木真吾

青森県立中央病院 循環器内科

櫛引 基

岩 手

岩手医科大学 医学教育学講座 地域医療学分野

伊藤 智範

岩手県立胆沢病院 循環器内科

八木 卓也

秋 田

秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座

長谷川仁志

市立秋田総合病院 循環器内科

藤原 敏弥

山 形

山形大学医学部 内科学第一講座

渡邊 哲

公立置賜総合病院 循環器内科

新関 武史

宮 城

東北医科薬科大学 内科学第一 (循環器内科)

山家 実

仙台市立病院 循環器内科

八木 哲夫

福 島

福島県立医科大学医学部 循環器内科学講座

八巻 尚洋

福島赤十字病院 循環器内科

大和田尊之

日本循環器学会東北支部役員 (令和5年6月現在)

支 部 長	渡辺 昌文 (山形大学)			
副 支 部 長	安田 聡 (東北大学)			
理 事	渡辺 昌文 (山形大学)			
	安田 聡 (東北大学)			
支 部 役 員	竹石 恭知 (福島県立医科大学)	森野 禎浩 (岩手医科大学)		
	富田 泰史 (弘前大学)	金 一 (岩手医科大学)		
	渡邊 博之 (秋田大学)	飯野 貴子 (いいの内科クリニック)		
	齋木 佳克 (東北大学)	堀内 久徳 (東北大学)		
	安田 聡 (東北大学)	熊谷 浩司 (東北医科薬科大学)		
	富岡 智子 (みやぎ県南中核病院)	渡辺 昌文 (山形大学)		
名 譽 特 別 会 員	伊藤 宏 白土 邦男	平 則夫 中村 元行		
	丸山 幸夫 久保田 功	下川 宏明 小丸 達也		
名 譽 支 部 員	青木 孝直 芦川 紘一	阿部 芳久 池田 かずえ		
	池田 精宏 石出 信正	石橋 敏幸 伊藤 貞嘉		
	猪岡 英二 今井 潤	大和田 齋司 岡林 均		
	金谷 透 小 熊 正 樹	長内 智宏 小野 幸彦		
	加賀谷 豊 門 脇 謙	金澤 正晴 金塚 完		
	上月 正博 木 島 幹 博	小岩 喜郎 後藤 敏和		
	小林 政雄 齋藤 公男	齊藤 崇 齋藤 富善		
	佐々木 弥 貞 弘 光 章	佐藤 昇一 佐藤 匡也		
	瀬川 郁夫 高 松 滋	立木 楷 田 巻 健 治		
	田代 敦 田 村 芳 一	野崎 英二 福 田 幾 夫		
	藤野 安弘 前 原 和 平	三 国 谷 淳 室 井 秀 一		
	元村 成 盛 英 機 毅	保 嶋 実 柳 澤 輝 行		
	山本 文雄 渡 辺 毅			
支 部 評 議 員	各 県 各 十 音 順、	○印は社員 (旧：全国評議員)		
青 森	阿部 直樹 木村 正臣	櫛引 基	○佐々木 真吾	
	齋藤 新 大徳 和之	○富田 泰史	萩井 讓士	
	花田 裕之 松井 宏光	皆川 正仁	森 康宏	
	横田 貴志 横山 公章			
岩 手	石田 大 ○伊藤 智範	遠藤 秀晃	大和田 真玄	
	木村 琢巳 ○金 一	熊谷 亜希子	小松 隆	
	高橋 智弘 中村 明浩	西山 理	房崎 哲也	
	三浦 正暢 ○森野 禎浩	八木 卓哉		
秋 田	飯野 健二 ○飯野 貴子	小坂 俊光	阪本 亮平	
	佐藤 輝紀 佐藤 誠	鈴木 智人	鈴木 泰	
	関 勝仁 武田 智	寺田 健	豊野 学朋	
	長谷川 仁志 藤原 敏弥	堀口 聡	松岡 悟	
山 形	○渡邊 博之 池野 栄一郎	内田 徹郎	佐藤 匡	
	有本 貴範 菅原 重生	須藤 直行	高橋 大損	
	穴戸 哲郎 西山 悟史	野崎 直樹	廣野 椋洋	
	新関 武史 松井 幹之	宮本 卓也	宮脇	
	福井 昭男 ○渡辺 昌文			
宮 城	○渡邊 哲 岩 渕 薫	大原 貴裕	川本 俊輔	
	伊藤 健太 熊谷 浩司	○齋木 佳克	西條 芳文	
	菊地 翼 ○篠崎 毅	白戸 崇	○高橋 潤	
	佐藤 公雄 ○建部 俊介	○富岡 智子	中野 誠	
	高濱 博幸 野田 崇	○富岡 広太郎	羽尾 清貴	
	浪打 成人 矢尾 板信裕	○安田 聡	山本 沙織	
	○堀内 久徳			
福 島	山家 智之 及川 雅啓	大和田 尊之	金城 貴士	
	石田 隆史 小林 淳	小松 宣夫	齋藤 修一	
	國井 浩文 杉本 浩一	○竹石 恭知	武田 寛人	
	杉 正文 福島 賢慈	八巻 尚洋	横山 斉	
	○中里 和彦			
	義久 精臣			
支 部 監 事	那須 雅孝 前原 和平			
支 部 幹 事	支部事務局担当幹事：渡邊 哲 (山形大学)			
	支部幹事：有本 貴範 (山形大学)			
	JCS-ITC 講習会担当幹事：花田 裕之 (弘前大学)			

日本循環器学会東北支部

各種委員会 委員名簿 (令和5年10月現在)

* 委員長

ダイバーシティ推進委員 (旧 男女共同参画委員)

* 西崎 史恵 (青森)	相馬 宇伸 (青森)	小島 香 (岩手)	那須 崇人 (岩手)
岩川 英弘 (秋田)	梅田 有理 (秋田)	有本 貴範 (山形)	渡部 賢 (山形)
齋藤 悠司 (山形)	富岡 智子 (宮城)	西宮 健介 (宮城)	佐藤 遥 (宮城)
黒沢 雄太 (福島)	菅原由紀子 (福島)		

オブザーバー

熊谷亜希子 (岩手)	八木 卓也 (岩手)	後岡広太郎 (宮城)	杉 正文 (福島)
------------	------------	------------	-----------

心肺蘇生法普及委員

花田 裕之 (青森)	西崎 史恵 (青森)	鈴木 智人 (秋田)	深堀 耕平 (秋田)
及川 浩平 (岩手)	照井 克俊 (岩手)	* 渡辺 昌文 (山形)	宮本 卓也 (山形)
篠崎 毅 (宮城)	羽尾 清貴 (宮城)	水上 浩行 (福島)	佐藤 悠 (福島)

成人先天性心疾患部会委員

大徳 和之 (青森)	大谷 勝記 (青森)	金城 貴彦 (青森)	高木 大地 (秋田)
豊野 学朋 (秋田)	寺田 健 (秋田)	小泉 淳一 (岩手)	齋木 宏文 (岩手)
上田 寛修 (岩手)	水本 雅弘 (山形)	安孫子雅之 (山形)	西山 悟史 (山形)
* 齋木 佳克 (宮城)	帯刀 英樹 (宮城)	多田 憲生 (宮城)	建部 俊介 (宮城)
若松 大樹 (福島)	桃井 伸緒 (福島)	及川 雅啓 (福島)	